

A17a 銀河、銀河団研究の将来

太田 耕司 (京大理)

これからの10 - 20年の間に、世界的に各種の地上及びスペースの大型観測装置が稼働する予定であり、また検討されている。これらの大型観測装置は、電波からX線・ガンマ線までの広い電磁波領域をカバーしており、ほぼ全波長域での深い観測が可能な時代となってくる。このような時代に、銀河・銀河団の研究は何を目指すのか？

この講演では、我々は銀河の形成や進化について何が知りたいのか？この点について、原点に立ち戻って私見を述べたい。また、そのためにはどんな観測装置が必要なのか？将来さらに大型の装置が必要なのか？我々は何を目指すべきかについて考えてみたい。一方、近年、更なる超大型観測装置への道に閉塞感も感じられる気がする。何かもっと別の道もないのだろうか？この点についても可能なら考察を試みたい。